

会費納入のお願い

正会員，準会員，賛助会員で平成14年度会費の未納の方は，事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No.128259）宛，または同封郵便振替用紙をご利用下さい。（会計委員）

原稿募集について

次号（第22巻，第1号）の発行は平成15年6月30日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは平成15年3月31日必着と致します。期日厳守の上，ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。（編集委員会）

編集後記

ワトソンの「二重らせん」やジャドソンの「分子生物学の夜明け」を読むと，分子生物学が物理学者の「生命とは何か」という科学的好奇心に始まることが分かります。生命と非生命の違いは何かという課題を純粹に追求していくうちに，「遺伝子組換え」という生命を自在に造り変える「神の手」を，分子生物学者は手に入れました。物質の起源を探るうちに原子力という巨大な力を得たのと似ているかもしれません。物理学と生命科学は意外に近いところにあるのです。本号の巻頭総説は「生体の恒常性と1/fゆらぎ」という題で，人間基礎科学講座の橋本昇教授に執筆して頂きました。橋本先生のご専門は物理学ですが，生命現象にも強い関心をお持ちで，すでに歯科薬理学講座との共同研究で立派な論文を刊行しておられます。この総説を熟読玩味の上，共同研究を申し込まれてはいかがでしょうか。本号にはこの他，原著論文6編，臨床論文1編と教育論文2編が収録されております。さて，次号の巻頭総説は口腔衛生学講座の千葉教授に執筆して頂く予定です。

ヒトゲノム計画が完了し，プロテオーム（全タンパク質）の時代が始まりました。ノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏の業績は，プロテオーム解析に不可欠の研究機器，質量分析機を，タンパク質に応用するための基礎的条件の偶然？の発見，と言われております。偉大な発見は全て発見すべき人による偶然の発見かもしれません。こんな大発見でなくとも，注意深い，ねばり強い研究からは良い偶然の発見が多く生まれます。個体差研究所と実験動物センターの増改築工事がほぼ終了し，真新しい研究設備が歯学部の高度な利用を待っております。（田隈 記）